

施設（高齢者向けホーム）の
入居者・保証人を対象とした
「介護に関する意識調査」
分析経過報告（速報）

2015年11月11日

ベネッセ シニア・介護研究所

施設（高齢者向けホーム）入居者・保証人を対象とした「介護に関する意識調査」概要

調査名	「介護に関する意識調査」
調査テーマ	有料老人ホーム等選択理由と決定方法。入居後の感想と今後の要望。
方法	郵送による調査 選択・記入式 記名自由
対象	ベネッセスタイルケアの有料老人ホームおよびグループホームの入居者・保証人 12,238名（年齢・男女不問）
調査内容	<ul style="list-style-type: none">・ 利用状況（利用者の属性、利用期間、ホームシリーズ種別（弊社内））・ 入居前の状況（お気持ち）・ 入居についての検討・決定経緯・ 入居後のご感想（満足度、家族周辺の変化、今後受けたいサービス）・ 認知症に対する質問（認知症の有無、介護へのご苦勞、現在の悩みご要望） *入居者のメディア利用（利用メディア、テーマ）
経緯	介護事業20周年にあたり、現在の入居者に対して意見を伺い、今後の介護事業の取り組みに反映する。
特長	<ul style="list-style-type: none">・ 現在有料老人ホーム等を利用されている方およびご家族（保証人）へのアンケートであること。・ 介護を託す（受けている）側の率直な意見を反映していること。・ 6000件を超える回答（回答率55%）（2015年10月23日現在）

本日共有の分析対象データ

分析件数	4,384件 (うち、自由記述データについては942件を分析)
回答者	配偶者、実父・実母、義父・義母、兄弟・姉妹、左記以外の親族
調査内容	<ul style="list-style-type: none">・ 入居の検討形態・ 入居までの介護期間・ 検討の際心の支えになったもの*・ 入居検討時に悩んだり苦労した点・ 介護に対する向き合い方・経験者だからわかること* <p>※自由記述を分析したもの</p>

結果サマリ

- 施設への入居は家族主導で検討されるケースが8割以上、そのうち64.0%は本人が独居
- 入居までの介護期間は「介護歴なし」が25.6%、「6ヵ月以内」で入居したケースが48.4%と約半数
- 家族同居の場合、入居までの介護期間は独居の場合より長い
- 家族同居の場合、「自宅介護へのこだわり」や「家族以外の介護への罪悪感」で悩んだ割合が、独居のケースより9ポイント程度高い
- 入居の検討に際し最も心の支えになったのは、医師・ケアマネジャー等の地域の専門職や、入居検討先の施設の従業員という回答が多い
- 家族同居の場合、入居後に「気持ちが前向きになった」人が7割以上、「入居者と家族の関係が良好になった」ケースも半数以上（56.2%）
- 自らの経験から、「介護は一人や家族で抱え込まず」「介護のプロや経験者の力を借りることが必要」との意見が多い

1. 入居検討のプロセス：入居の検討形態

質問

- ・ご入居される前のご本人の状況は、ご家族同居／独居どちらでしたか？
- ・入居をいただく際に検討を主導された方はどなたでしたか？

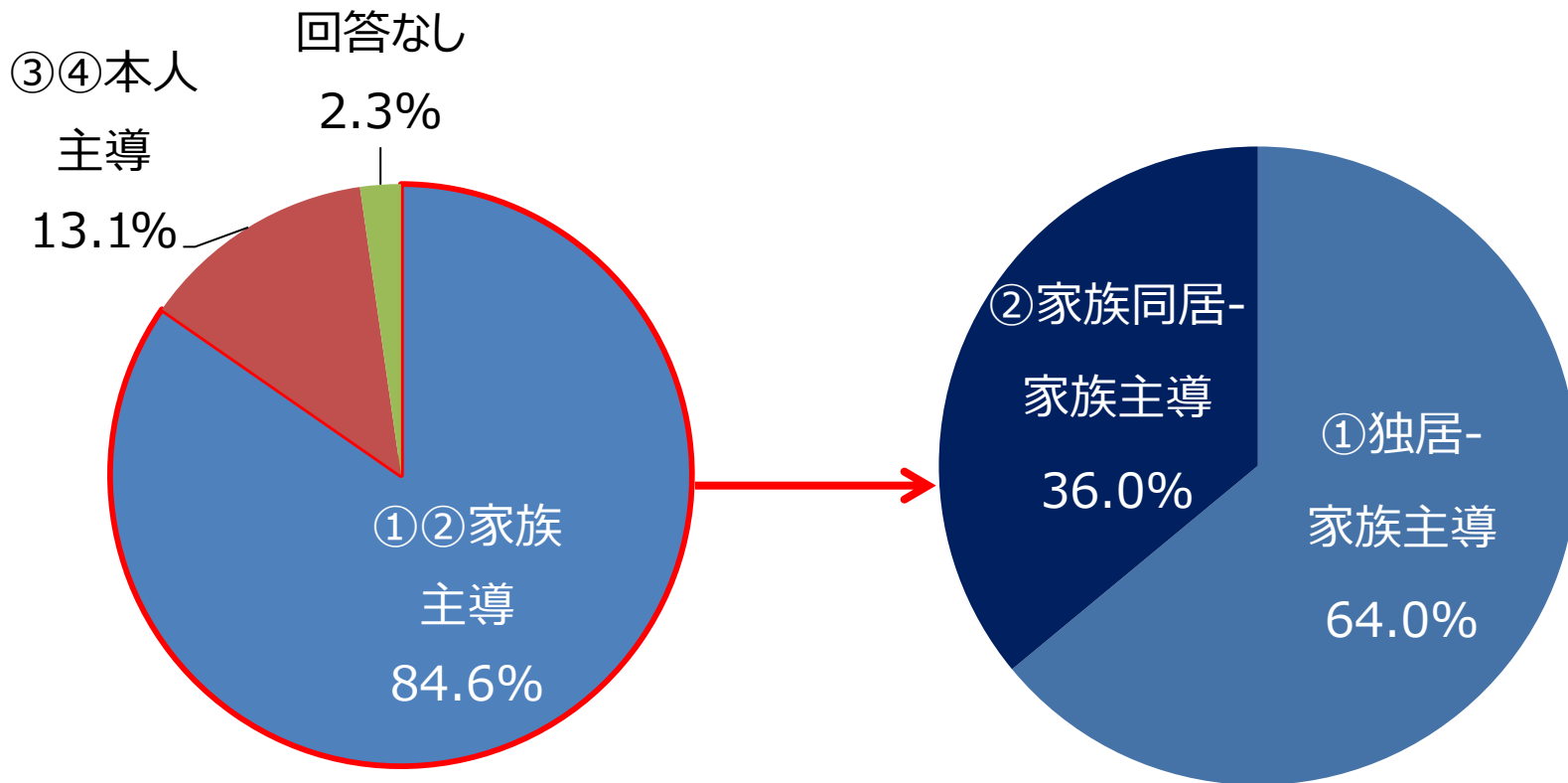
以下①～④のうち、該当するタイプを尋ねた。

	ご家族主導で 入居を検討	ご本人主導で 入居を検討
入居前は 独居	①	③
入居前は ご家族と 同居	②	④

1. 入居検討のプロセス：入居の検討形態

質問

- 入居をいただく際に検討を主導された方はどなたでしたか？
- ご入居される前のご本人の状況は、ご家族同居／独居どちらでしたか？



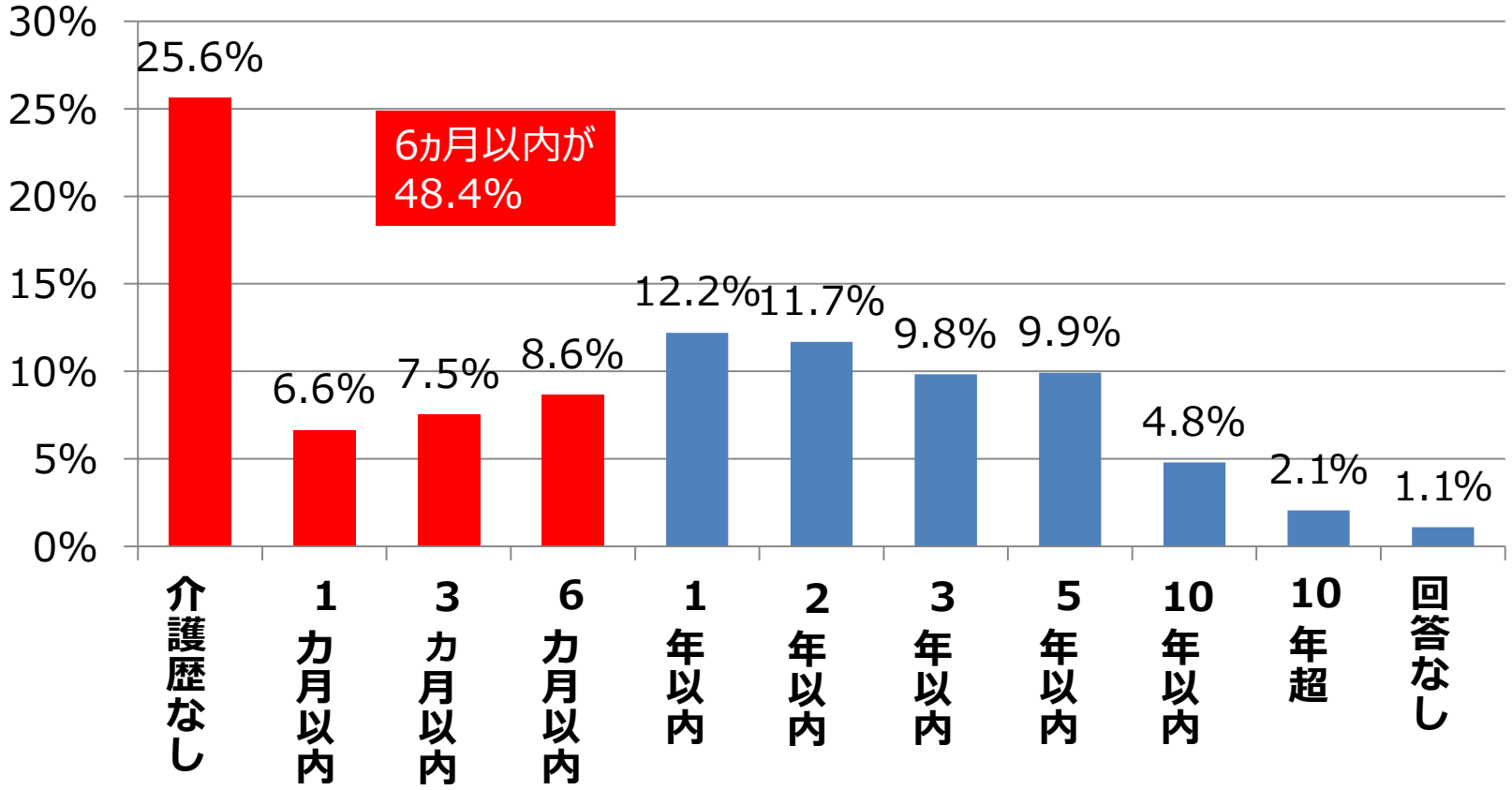
傾向

- 入居の検討は家族主導が84.6%
- そのうち64.0%は本人が独居

1. 入居検討のプロセス：入居までの介護期間

質問

ご入居されるまでの介護期間はどのくらいでしたか？

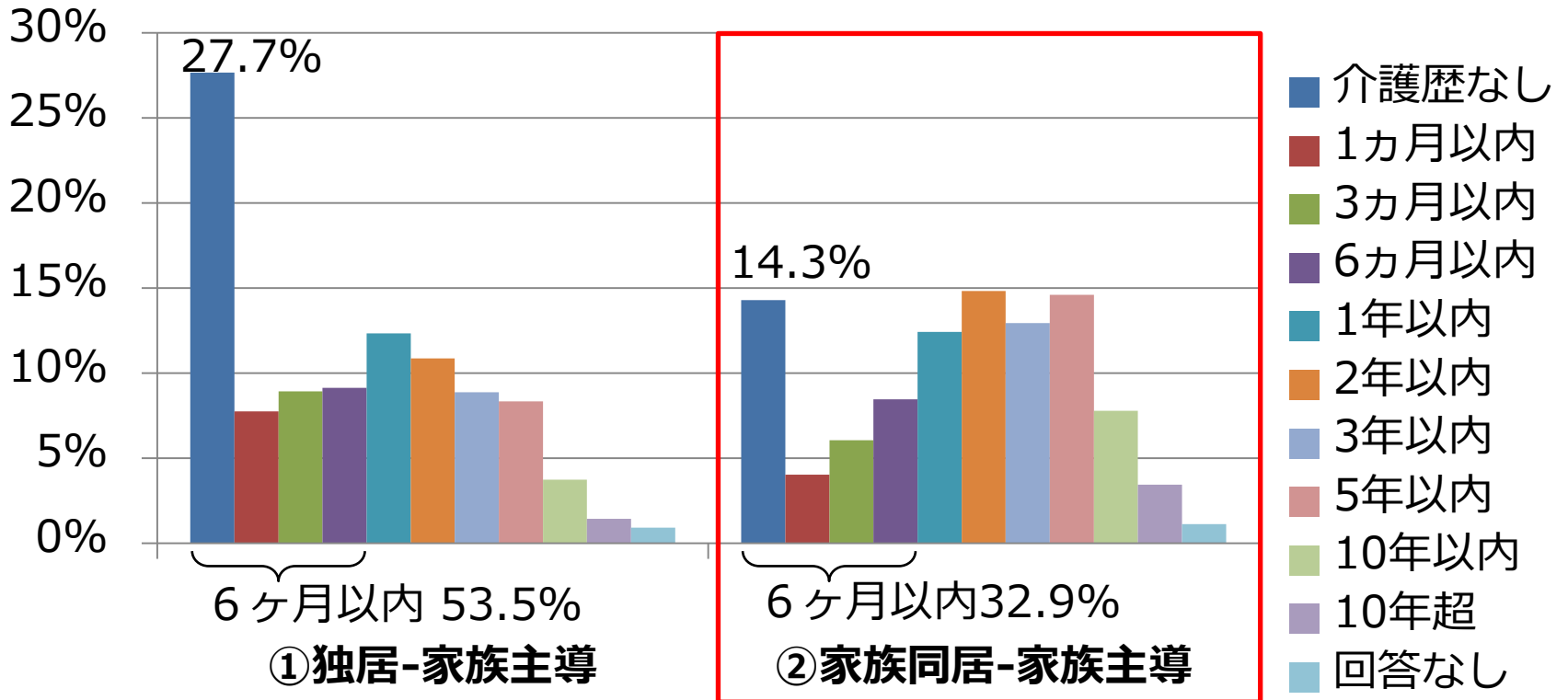


傾向

- 介護歴なしが25.6%
- 介護期間6カ月以内で入居したケースが48.4%

1. 入居検討のプロセス：入居までの介護期間 (①独居-家族主導および②家族同居-家族主導のケースについて)

質問 ご入居されるまでの介護期間はどのくらいでしたか？



傾向

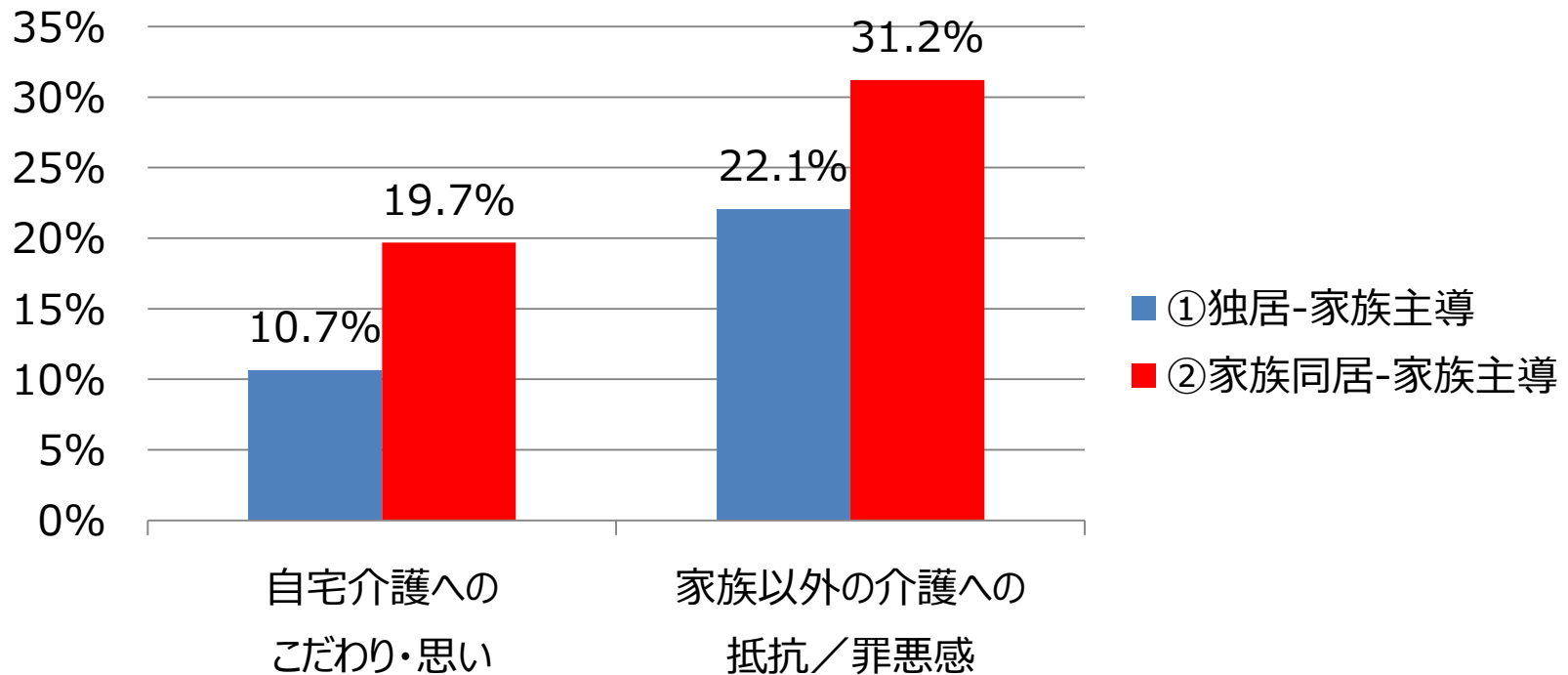
家族と同居かつ家族主導で入居を検討した場合、介護歴なしの割合が低く、介護を経験後に入居に至るケースが多い

2. 入居の検討に際しての悩み

(①独居-家族主導および②家族同居-家族主導のケースについて)

質問

老人ホームへの入居を検討されるにあたり悩まれた点・苦勞された点を教えてください。



傾向

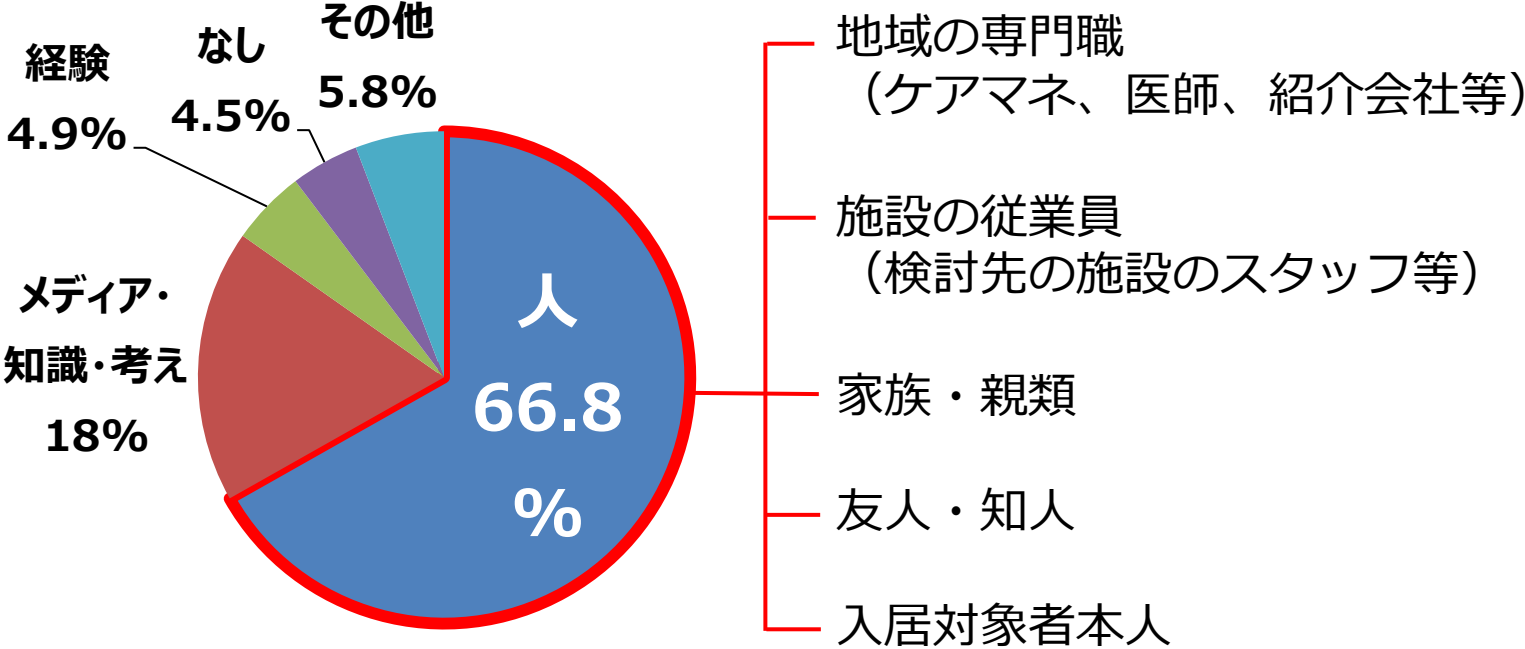
家族同居の方が、自宅介護へのこだわりや家族以外の介護への罪悪感を感じる人の割合が高い

3. 入居の検討に際して心の支えになったもの (①独居-家族主導および②家族同居-家族主導のケースについて)

質問

検討を進める上で「心の支えになったもの」
(人・書籍・言葉など)があれば教えてください。(自由記述)

自由記述を分析した結果、大きくは以下のような分類ができた。

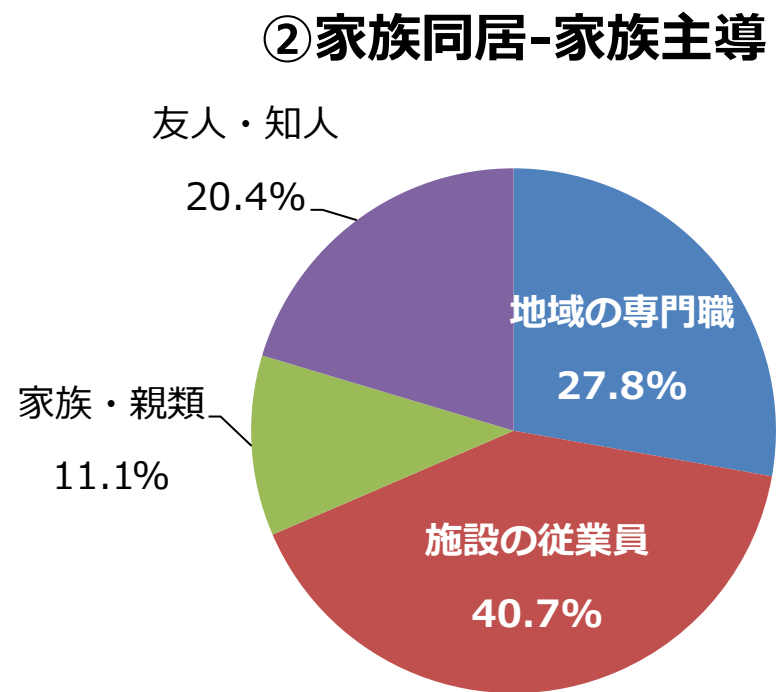
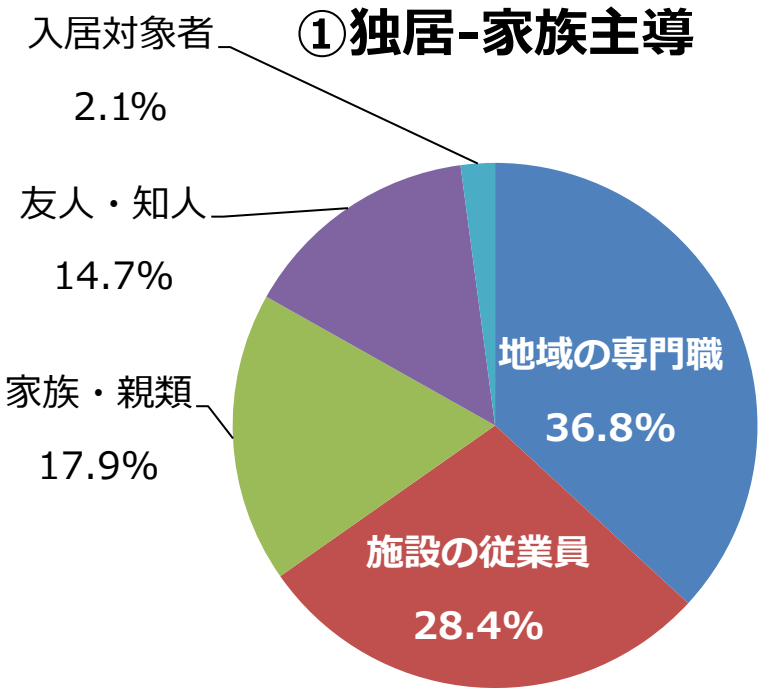


傾向

- ・ 人そのもの、人の言葉・話、人の態度・対応など、検討に関わった「人」を何らかの形で挙げた回答が全体の7割近くを占めている
- ・ 具体的な「人」は、地域の専門職や施設の従業員が多く、友人・知人を挙げたケースは介護経験者や家族が入居している人が多い

3. 入居の検討に際して心の支えになったもの (①独居-家族主導および②家族同居-家族主導のケースについて)

質問 検討を進める上で「心の支えになったもの」
 (人・書籍・言葉など)があれば教えてください。(自由記述)



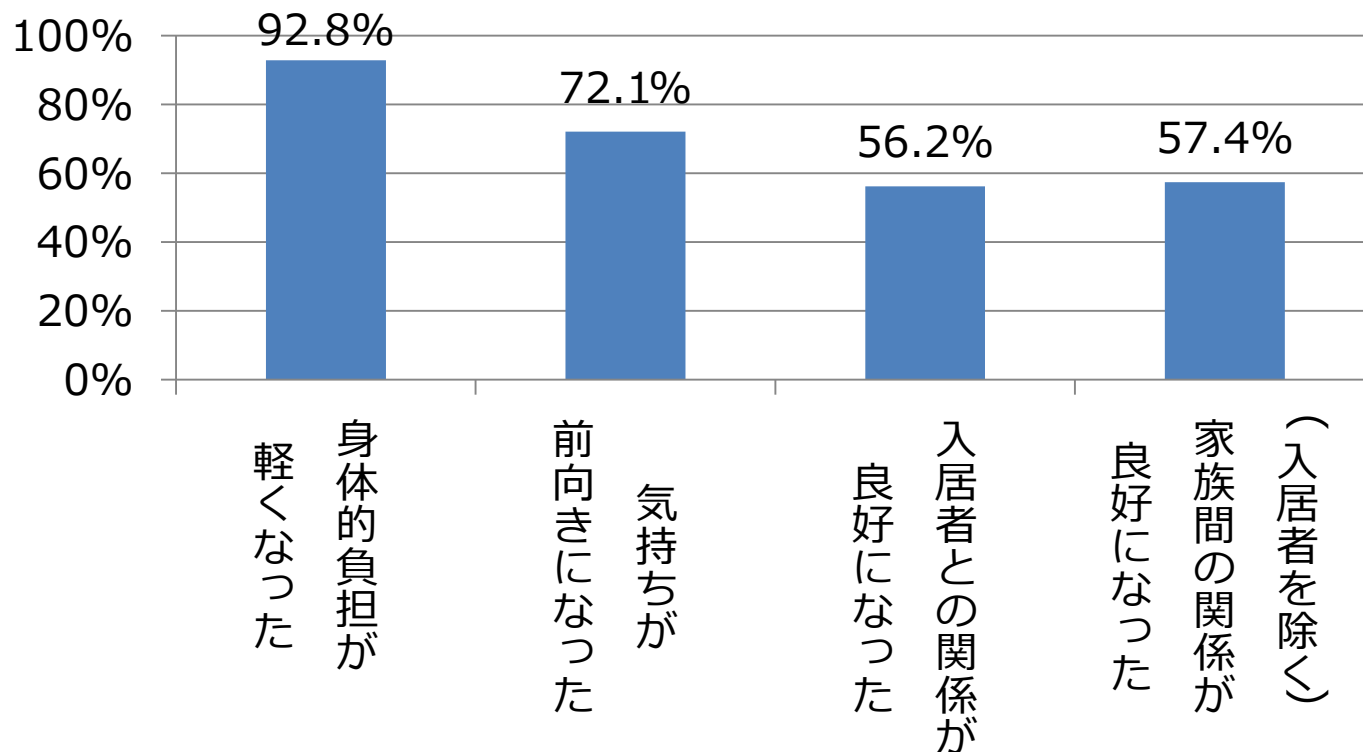
傾向 心の支えになった「人」は、

- ・独居の場合 → 地域の専門職（ケアマネジャー、医師、紹介会社等）
- ・家族同居の場合 → 施設の従業員（老人ホームスタッフ等）

という回答が多い

4. 入居後の変化（②家族同居-家族主導のケースについて）

質問 入居をきっかけに「ご家族」の生活に変化はありましたか？



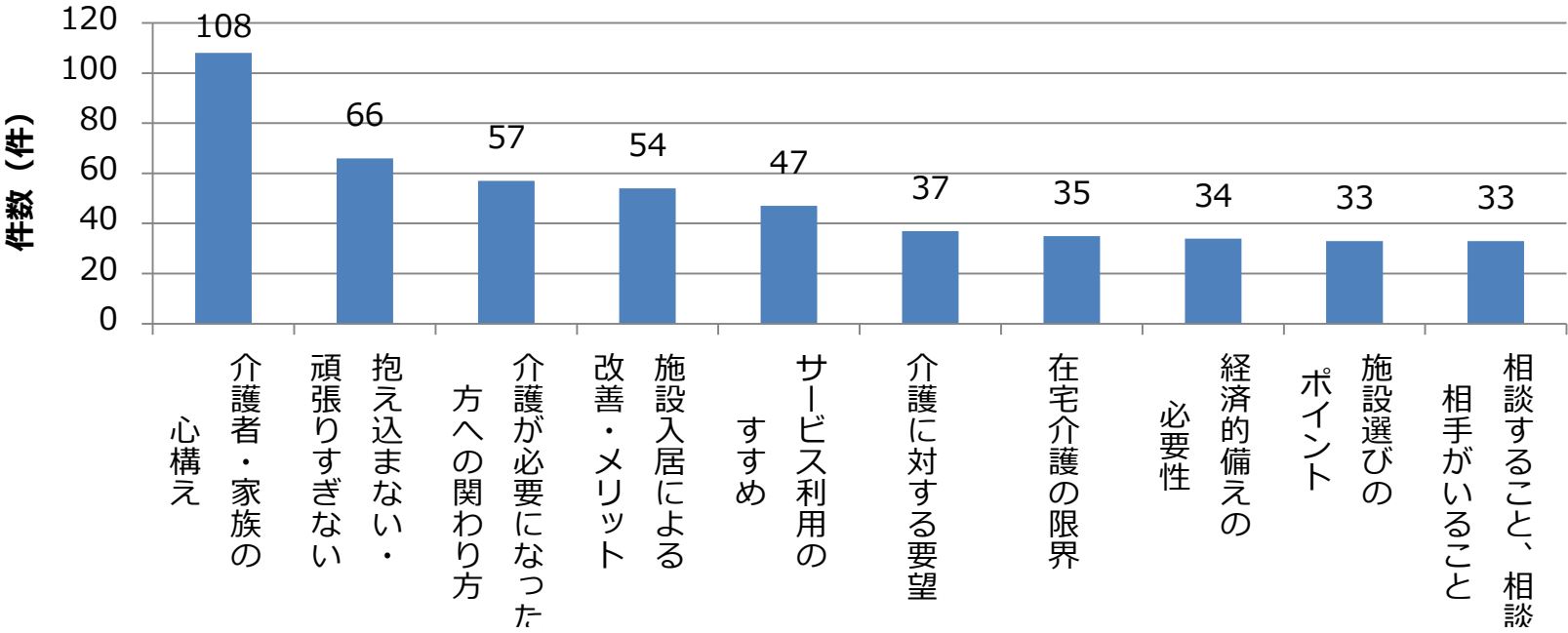
傾向

身体的負担が軽くなっただけでなく、7割以上が気持ちが前向きになった、また半数以上が入居者との関係ならびに入居者を除く家族間の関係が良好になったと回答

5. 介護に対する向き合い方

質問

現在介護でお困りの方(主にご家族)、また今後ご家族の介護を迎えられる方に向けて、ご自身の体験を通して感じられた「介護に対する向き合い方」や「経験者だから分かること」を自由にご記入ください。(自由記述)



傾向

- 一人や家族で抱え込まずに他の人やプロの手助けを借りることが必要とする意見が多い
- プロの手を借りること (= サービス利用) により、入居者・家族双方の状態や両者の関係が改善したことを、メリットとして挙げる意見も多い

本調査より浮かび上がった入居者および家族の姿

【独居の高齢者について 家族主導で入居を検討したケース】

- けがや病気で状態が急変、介護が突然やってきた
- 事前の知識がなく、独居のため普段の本人の様子がよくわかっていない場合も多く、どうしたら良いかわからないので、まずは地域の専門職に話を聞きに行く
- 急を要しているため、十分な検討期間がないままに入居に至ることも多い

【家族と同居の高齢者について 家族主導で入居を検討したケース】

- 自分がみてあげたいという思いや介護を人に任せる罪悪感もあり、家族で頑張って介護をしてきた
- 時間の経過とともに、家族による介護が限界をむかえて、施設入居を考えるようになった
- それまでの介護経験で蓄積した知識と普段から見ている本人の様子をもとに、いくつかの施設を見に行く
- 相談のプロセスで、入居検討先の施設の従業員が支えになり、入居を決める
- 入居により、当初の想像とは違って、入居者との関係が良好になったケースも多い

まとめ

- 介護が突然現実のものになることも多いため、高齢者本人や家族だけでなく、周りの人、さらには社会全体が、介護に関する知識をあらかじめ持てるようにする必要がある。
- 一人・家族だけで悩まず、専門家に相談することが大切。
- 一人・家族だけで頑張りすぎず、社会資源を活用することも必要。
- 施設入居などのサービスの利用により、身体的・精神的負担が軽くなるだけでなく、家族関係が改善するケースも多い。したがって、このような選択肢は、仕事と介護の両立が可能となり、介護離職の減少にもつながる方策の一つと言える。